



豊田中だより

令和8年1月16日(金)

1 月 号

横浜市立豊田中学校

〒244-0815

横浜市戸塚区下倉田町950番地

☎ 045-864-8640

「1月ならではの風景から」

校長 鈴木 秀彦

令和8年がスタートしました。本年もよろしくお願いたします。

今年は午年（うまどし）の中でも、丙午（ひのえうま）の年です。この丙午の年は昔から情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ち溢れる年と言われています。大きな飛躍のチャンスと受け止めて、新しいことやあきらめかけていたことに挑戦すると良い結果に繋がるかもしれません。

また、1月の学校といえば、教室や廊下いっばいに生徒が書いた書き初めが掲示されたり、教室から百人一首の授業で札が「取れた！😊」とか「取れない😞」などと、一喜一憂する声が聞こえたりします。こうしたお正月ならではの風景は豊田中学校の中でも見るができます。各学年のフロアには『不言実行』『一心不乱』『新たな目標』『旅立ちの春』等と書かれた書き初めが整然と掲示されており、また、先生が読む札の声に合わせて、机をたたく音が廊下に響いていたりします。

さて、小学校や中学校の授業や冬休みの宿題となっている『書き初め』ですが、昔はお正月に行われる習わしの一つだったそうです。例えば、皆さんの家でも年末に大掃除をしたり、お節料理や飾り物等の準備をし、新年を迎える支度をした人がいたのではないのでしょうか。実はこれらはすべて、その年の豊作を祈って穀物の神様をお正月に迎えるために行われているものだそうです。これと同様に『書き初め』もその一つに含まれており、お正月に行う書き初めは穀物の神様への感謝と、これから一年間の無事を祈願するために書かれていたといわれています。

さらに時代をさかのぼり、書き初めの由来を調べてみると、もとは平安時代の宮中行事として行われていた『吉書始め（きっしょはじめ）』だといわれています。吉書始めは、元旦の早朝に初めて汲んだ神聖な水で墨をすり、その年の縁起のいい方角に向かって詩歌を書くという優雅な行事だったようです。そして、時は流れて江戸時代には寺子屋で、書き初めとして庶民に広まったとされています。

平安時代に始まった書き初めが、江戸時代には子どもたちに広まり、時代を経て今でも多くの学校で行われていることに、どこか神秘的にも思えてしまいます。

どの時代でも、一年の初めに自分を見つめて「今年は〇〇頑張るぞ!」「いい年にしたい!」と願うことは共通していたようです。

1月も中盤ですが、改めて自分にとって一年間の目標や思い・願いを意識して、これからの学校生活を楽しんでいきましょう。

『健やかに学び、ともに生きる』(豊田中学校の学校目標です!)

～保護者・地域の皆さまへ～

昨年は、豊田中学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。新年となり、子どもたちは変わらず元気に登校し、それぞれの目標に向かって学校生活をスタートしました。今年も教職員一同、子どもたちの成長を見守り、ともに学んでいきたいと思っております。今年もどうぞよろしく願いいたします。



<生徒会長より>

生徒会長

みなさん、あけましておめでとうございます!

そして、前生徒会長さん、本当にお疲れさまでした。先輩方の素晴らしい活動を間近で見ることができてとても良い経験になりました。ちょうど一年前、先生に推薦され、なんとなくの気持ちで入った生徒会でしたが、様々な行事に全力で向き合ったことで行事を影で支えていた先輩方の存在にきづくことができました。そして、さらに豊田中学校の行事を盛り上げていきたい気持ちが強まり、もう一度生徒会に立候補しました。

私の目標は、「より進化した豊田中学校」を創ることです。豊田中学校を進化させるためには他の委員会や生徒のみなさんと積極的に関わり、一緒に活動していくことが大切だと思っています。今後もアンケートを活用し、生徒会活動に皆さんの意見をより多く反映し、実現できるように務めていきます。

私一人の力では限られたことしかできませんが、生徒のみなさんの、声を大切に、生徒会長という自覚をしっかりと持ち、生徒のみなさんがより楽しく最高の学校生活を送れるように全力を尽くしていきます。何か困ったことなどがあれば、いつでも気軽に声をかけてください。

2026年を皆さんにとって、学校全体にとって、より良い最高の一年になるように共に力を合わせていきましょう。生徒のみなさんからの信頼を大切に、そして皆さんからたくされた思いを形にできるよう、生徒会役員と協力し、頑張っていきます。これからもよろしく願いいたします。

<令和7年度 横浜市学習状況調査の結果について>

学力・学習状況調査結果

本年度実施した「横浜市学力・学習状況調査」の豊田中学校と横浜市の平均を比較した結果を、教科ごとにまとめましたので、お知らせいたします。

国語

横浜市の平均と比べて、全学年、横浜市と同じような正答率であった。その中でも、1学年は「語句の構成」や「話し言葉と書き言葉の違い」の理解が低かった。言葉の意味だけでなく、使い方の指導にも力を入れたい。2学年は「資料の活用」に課題が見られた。自分の考えに資料を活かせるように指導をしていく必要がある。3学年は「語彙・表現技法の理解」について課題が残った。義務教育の最終学年として、多くの文章に触れさせ、国語の基礎的な力を向上させるように取り組みたい。

社会

全学年を通して共通して言えることは、知識理解の問題の正答率は市平均と同じ程度もしくはやや高いが、思考判断の問題についての正答率はそれよりもやや下がる。すべての教科でそのような傾向があるものの、社会科の授業で取り組みたいことは、主体的で対話的な授業を多く行うことで、対話を通して思考し表現し調整する力をはぐくみたい。

数学

横浜市の平均と比べて、全学年いずれも計算や関数の分野では正答率が高い傾向にあった。統計や確率などデータの活用の分野、平面図形や空間図形など図形の分野では横浜市の平均を下回っていた。また、それらの領域は「思考・判断・表現」が横浜市の平均を下回ることがやや多かった。数学の基礎基本的な知識はあるが、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力をつけさせる取り組みに努めたい。

理科

全学年を通して市平均正答率を上回っているかほぼ同等の正答率であった。特に生命領域や粒子領域において基礎的な知識技能の定着が見られた。エネルギー分野において若干の課題が見られた。特に実験の結果について、結果の見通しを考えることが課題である。また2,3年生において生物の観察記録の技能が身につくよう、丁寧な指導を心がけたい。

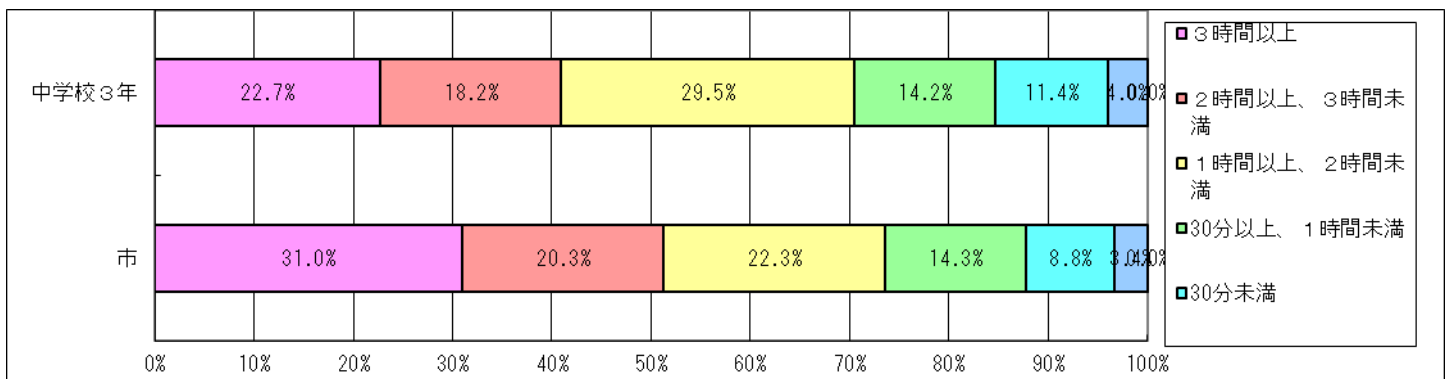
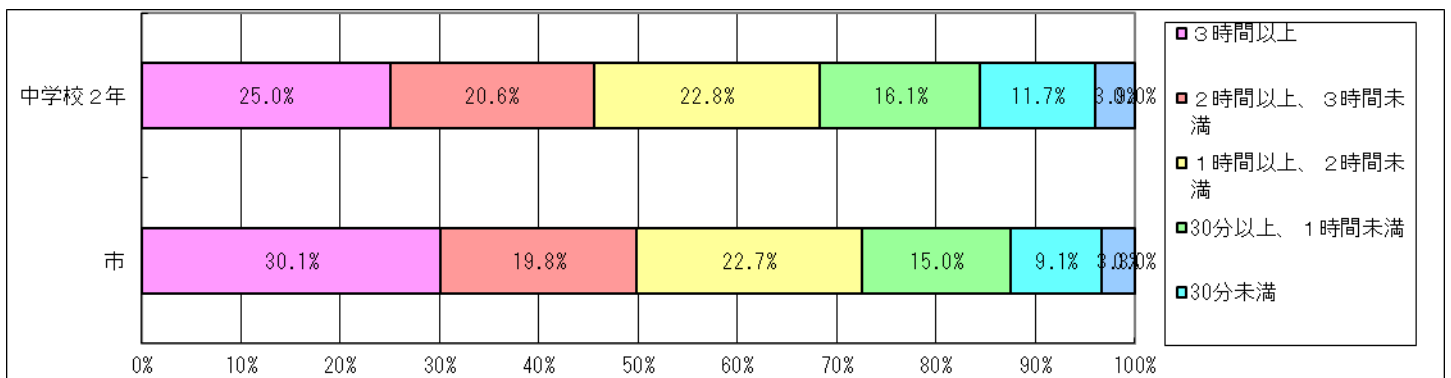
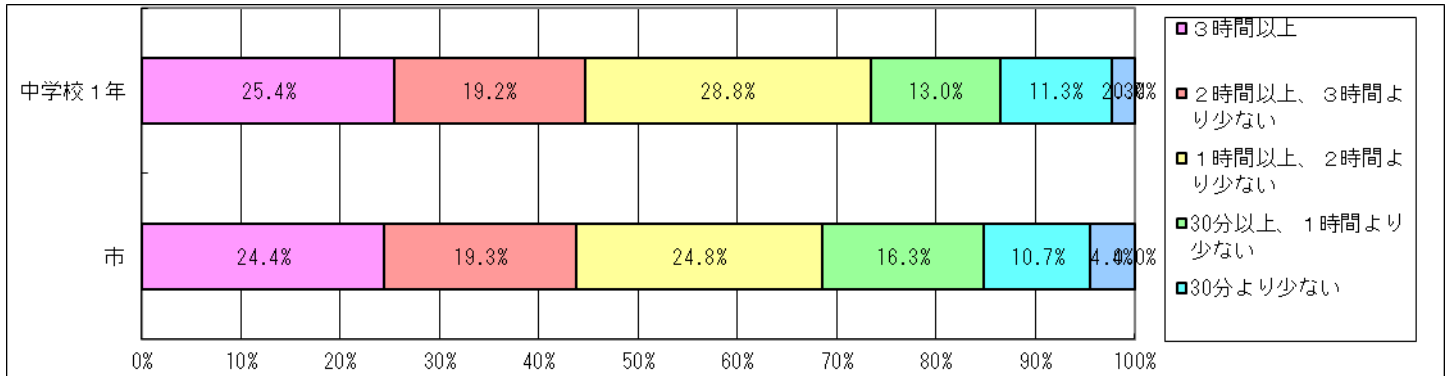
英語

外国語の4技能のうち、「聞く」「読むこと」では、横浜市の平均とほぼ同じような正答率だった。これは、日頃の授業でICTを活用し、個人が課題を意識しながらリスニングやリーディングの活動に取り組んできた結果であると推測される。一方、「書くこと」では課題が見られたため、特にライティング力の向上に努めていきたい。

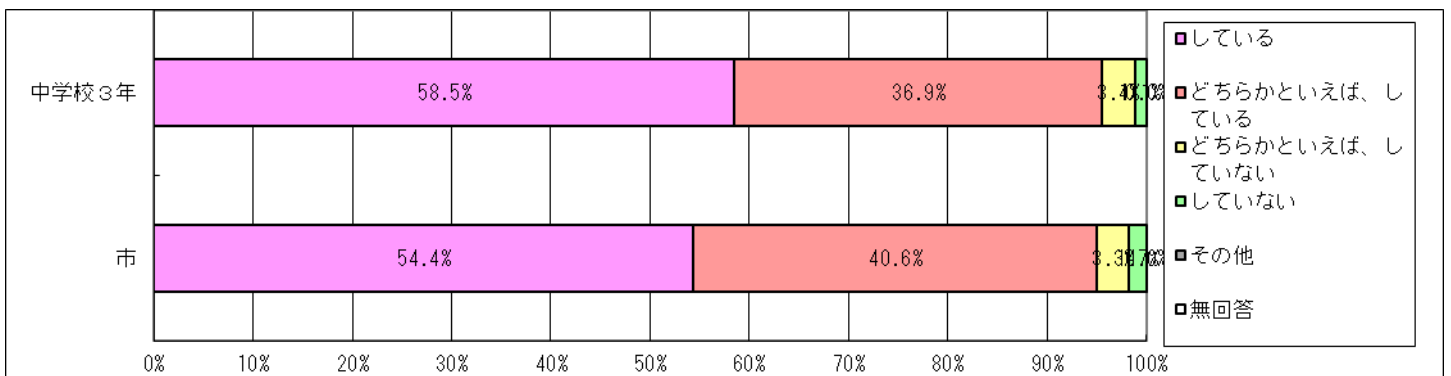
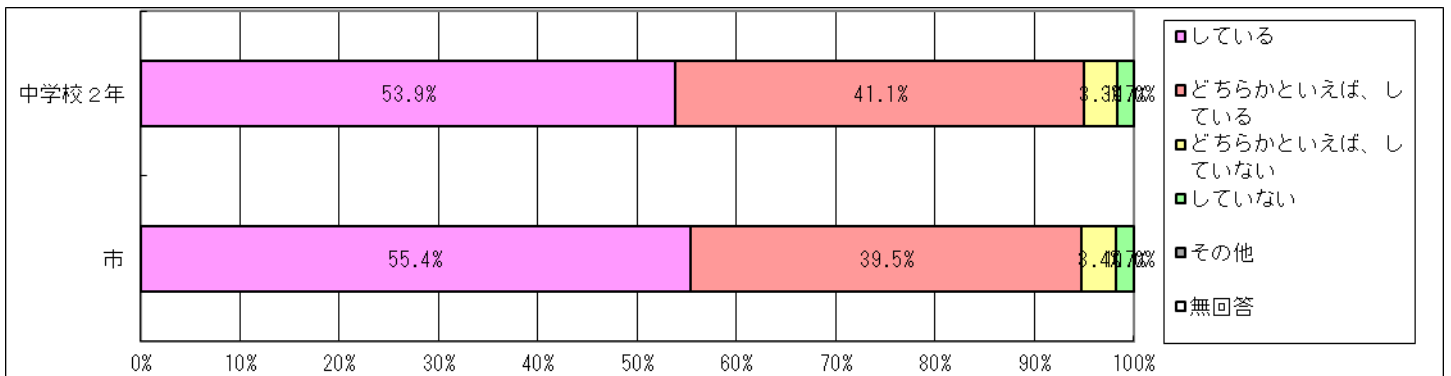
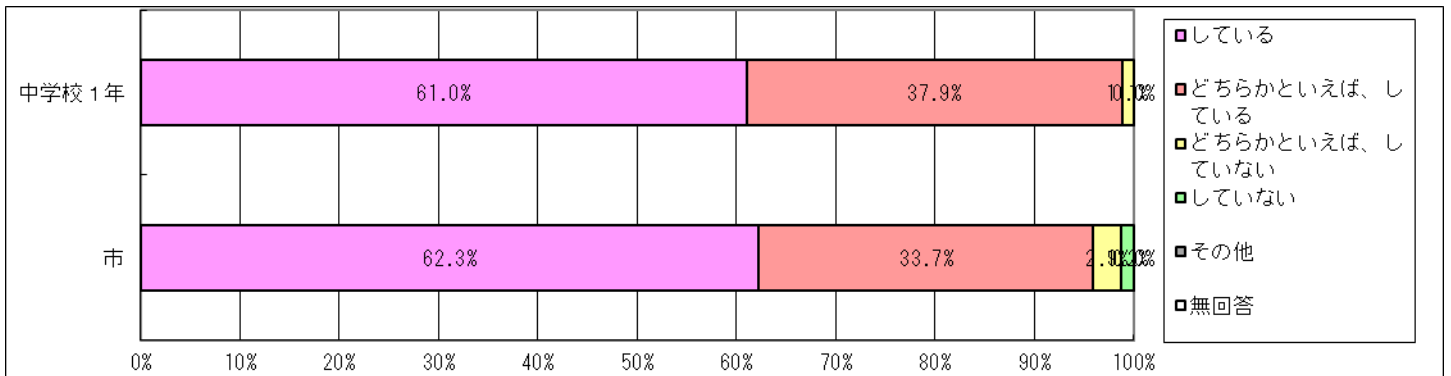
生活・意識調査結果

近年、SNS におけるトラブルが増加傾向にあるため、以下の2点の質問に関する調査結果をまとめましたので、お知らせいたします。

●家庭で、一日にどのくらい携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを使っていますか（ゲームをする時間は除く）。



●インターネットの特徴を理解し、相手の気持ちを考えながら言葉などを送ろうとしていますか。



2つ目の質問「インターネットの特徴を理解し、相手の気持ちを考えながら言葉などを送ろうとしていますか。」の回答状況の結果を見ると、「している」「どちらかといえば、している」の回答割合が、全体的に市の平均を上回っているように読み取れる。また、「どちらかといえば、していない」「していない」の回答割合も全体的に市の平均を下回っている。本校では毎年「SNSトラブル未然防止講演会」を実施しており、このことが結果につながっていると考えられる。

1つ目の質問「家庭で、一日にどのくらい携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを使っていますか。」の回答状況の結果を見ると、「3時間以上」使用しているが、2、3年は市の平均を下回っているのに対し、1年は市の平均より1%ではあるが、上回っている。今回の調査結果については、豊田中学校では、学年が上がっていくと、スマートフォン等の使用が減っていく傾向が見られるため、特に1年生の時期にSNSトラブルが起こりやすいと考察できる。1年生から継続して、SNSを通じた適切なコミュニケーションのとり方の指導、トラブルにつながらないための意識づけを、学校・家庭・地域で連携して行っていきたい。

